



年末・お正月におすすめの本



12の月たち(スラブ民話)【評論社】
(再話)サムエル・マルシャーク (絵)ダイアン・スタンレー
(訳)松川 真弓

日本では『森は生きている』という劇で知られていますが、その元となったボヘミア民話の再話です。大雪の中、継母に言われ、春の花マツユキソウを探しに森に入った女の子。花など見つかるわけもなくこごえそうになったその時、たき火の灯りを見つけました。そしてそこには12人の月の神様が！1月、2月、3月の神様が次々に杖をふりあげると...マツユキソウが咲き出したのでした。15分くらいかかりますが、素敵なお話です。他の出版社からもタイトルが少し変わりますが、出ています。

もうすぐおしょうがつ【福音館書店】
(作)西村繁男

冬休みに、おじいさん、おばあさんの家でお正月を迎える家族のおはなし。日本ならではの正月を迎える風景が、温かく、懐かしく感じます。登場人物(?)がすべて動物なのも楽しいです。



おおみそかのおきゃくさま(紙芝居)【教育画劇】
(文)矢崎節夫 (画)藤本四郎

大晦日の晩に貧しい身なりのお坊さんが訪ねてきました。長者さんは冷たく追い払ったのですが、貧しい家の老夫婦は快く泊めてあげました。お坊さんが帰りに置いていった不思議な粉は、なんと若返りの粉!! ところが、欲張りな長者さんが真似をすると...。
子どもから大人まで楽しめます。



おばあちゃんのおせち【佼成出版社】
(作・絵)野村たかあき

きりちゃんがおばあちゃんに教わりながら、お正月を迎える準備をしていくお話。商店街で買い物をし、料理を手伝い、おせちのいわれを聞き...そうそう、大掃除も忘れずに!
とても温かみのある版画絵です。



おせちのおしょうがつ【世界文化社】
(作)ねぎしれいこ (絵)吉田朋子

お正月におせちのみんなが、鏡餅の家に遊びに行きます。「きんきんぴらぴらきんぴら」小さな冒険と優しい手芸のタッチが、終始笑顔にしてくれる一冊です。お正月を迎える前に...! 1年生向き。
(かずのこ・きんとん等の由来もわかります)

ぐりとぐらのおおそうじ【福音館書店】
(文)中川李枝子 (絵)山脇百合子

みなさんは、年末の大掃除に向けて何かしていますか? ぐりとぐらは埃っぽいお家の中を色々と工夫をして、楽しくお掃除をしていきます。
きれいになった後のおやつのにんじんクッキーは美味しかったでしょうね。